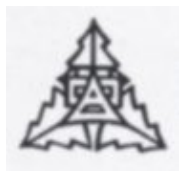


「からまつ」のようにきびしい自然に耐え、どっしりと大地に根をおろし、すくすくと育つ西春別小学校の子ども



別海町立西春別小学校 学校だより

からまつ No. 9

令和4年11月30日発行 校長 太田 等

学校の教育目標

知 よく考え表現する子

徳 心豊かで思いやりのある子

体 進んでやりぬくたくましい子

## 不 易 ～永続的な力～

太田 等

11月1日。講堂の窓から暖かな陽ざしが降り注がれる中、全校朝会が行われました。私は翌2日が本校開校90周年記念日ということにちなみ、開校当時から現在に至る校舎や子どもたちの様子などについてスライドを示しながらお話ししました。子どもたちは時折、驚きの声を上げながらも真剣な眼差しで聞いていました。西春別小学校の発足は、昭和7(1932)年4月1日。旧柏野小学校西春別特別教授場として共同小屋を一時借りて開校。その当時は、グラウンドもなければ教材もなく1年生から6年生までの82名を一人の先生が担任し、校長から小使まで兼務していたとのこと。(『飛揚』開校50周年記念誌)児童数がかつても多かったのは、昭和35年の272名。(1教室の児童数は、単純計算すると45名)昭和45(1970)年新校舎完成。現在の校舎は、昭和63(1988)年12月に全面改築。このように西春別小学校は、90年もの長き歴史を経て校舎や児童など、あらゆるものが変化しました。しかし、その中で変わっていないものは、「明るく」「清く」「たくましく」の校訓です。今や100歳を超えた90年前の子どもたちの先輩方もこの校訓をみて成長を続けてきたことでしょう。

「開校記念日は、学校創立の意義や伝統を振り返る中でそのよさを受け継ぎ、新たな時代に向けて、生き抜く力を身に付けていくことをあらためて考える時です。したがって、90周年を迎える今、この学校で学ぶ皆さんも、新たな目標を掲げて、成長してってくださいと。」と伝え、講話といたしました。子どもたちは、長い歴史の中に今を生きているということを感じたのではないかと思います。

「不易」という言葉があります。不易とは、時代を超えて変わらない価値です。開校当時から本校の底流に流れている「校訓」などがそうです。今年23日のサッカーFIFAワールドカップ2022で日本代表がドイツに勝利するという歴史的快挙を成し遂げました。日本サッカーがメキシコ五輪で銅メダルを獲得したのは、1968年。その原動力になったといわれているのが、日本代表のコーチとしてドイツから招かれた「日本サッカーの父」と言われるクラマー氏です。クラマー氏は、「基本を固めてこそ、その上に立派な土台はできる」と、日本のトップ選手にもボールを止める、蹴るといった基礎練習を徹底したとのこと。ここにも「不易」を学ぶことができます。

今年7日に別海町の教育委員さんが数名学校訪問として来校されました。授業や校内の様子を見ていただいた後、一人の教育委員さんから、掲示版に分厚く貼られた数十枚もの子どもたちが書き綴った「学びレポート」を目にした事について、「『自分の考えをもち豊かに伝えられる子ども』という目指す子ども像の実現に向け、継続されていますね。」とのお言葉を頂きました。教育の目的は子どもたちに永続的な力をつけることです。それは、一度や二度教えたからといって身に付くものではありません。「不易」を基に、一貫・徹底・継続して初めて本当の自分の力となります。

今年も早いもので残すところ後ひと月となりました。今年はコロナウイルス感染拡大に加え、インフルエンザの流行も懸念されております。一年の中で、最も慌ただしい時期となりますが、感染対策を徹底しながら、子どもたちが、健康・無事故で過ごせられるよう、最善を尽くして参ります。